

令和6年度 長崎市立小島中学校 学力向上プラン

学校教育目標 「人間性豊かで、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」

学力向上にかかわる学校経営方針

学習規律の確立

家庭学習の充実

指導方法の改善による「楽しい授業」「わかる授業」の実践

評価・評定の工夫

GIGA スクール構想の実現及びキュビナ・ICT 機器の活用

小中連携

令和6年度 1 学期結果

- 生徒用学校評価アンケートにおいて
「先生方は、授業の約束事を徹底し、わかりやすい授業を行っている。」→94%
「家庭学習の習慣が身についている」→63%
- 全国学力調査が平均を下り、県・市学力調査の結果がそれぞれ平均と同程度・平均以上であった。

重点努力目標

- 生徒用学校評価アンケートにおいて
「先生方は、授業の約束事を徹底し、わかりやすい授業を行っている。」→95%以上
「家庭学習の習慣が身についている」→70%以上
- 全国・県・市学力調査の結果がそれぞれ平均以上
- 各教科で評定3以上が 80%以上

教育課程編成、指導方法の工夫

- 朝の時間に、3 年生はモジュール学習でキュビナを活用した学習。(週に 3 回)1、2 年生では週に 2 回キュビナでの学習を行う。
- 個に応じた指導の徹底(特別支援教育や TT 等)
- 基礎的・基本的な知識や技能の習得・反復

- 思考力・判断力・表現力育成。よく聴き考える場面、話し合いの場面の意図的な設定
- ICT 機器の活用
- 総合的な学習の時間をはじめ、各教科で横断的に学びを深める

学力向上に向けた各教科の取組

国語	・漢字や慣用句のテストを定期的に行う。 ・ペア活動や班活動を取り入れ、言語活動の充実を図る。
社会	・前時の確認テストを行い、繰り返し学習することで、基礎・基本の定着を図る。 ・よりよい社会の実現を視野に、現代社会が抱える諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
数学	・授業始めに、基礎・基本的な計算練習を行う時間を設け、基礎・基本の定着を図る。 ・グループ学習の機会を通して、数学的事象の理由の説明ができるようにする。
理科	・前時の振り返りの機会を設けたり、キュビナを用いたりして基本的な知識の定着を図る。 ・実験や観察、グループで話し合い活動等を通して、思考・判断・表現の力を高める。
美術	・自己の主題や表現意図を基に材料・用具・技法等を選択し、表現活動に生かすことができるようにする。 ・対話的な活動の中で、互いの見方や感じ方に気づき、新たな価値を見出すことができるようにする。
音楽	・自分の思いや意図を、自分の言葉で説明する活動を取り入れ、表現の力を高める。 ・音楽の鑑賞を通じて、価値観を広げ、世界の文化を尊重する態度を養う。
保体	・生徒同士の対話的な活動を行い、お互いを理解するとともに、表現の力を高める。 ・教え合いができるように配慮した班編成を行い、協力して活動する力を養う。
技家	・獲得した知識・技能を生かした実践的・体験的活動を行い、実生活に生かせるようにする。 ・自ら問題を発見、調査し、課題を解決する活動を仕組み、思考・判断・表現の力を育成する。
英語	・目的、場面、状況に応じた言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を高める。 ・自分の考えや気持ちを、簡単な語句や文を用いて話したり書いたりする力を身につける。

